

SK式 食事場面 嚥下機能アセスメントシート(自己摂取版)

評価日: _____ 年 _____ 月 _____ 日 開始時刻: _____ 終了時刻: _____

ID: _____ 氏名: _____ 評価者: _____

嚥下調整食分類: (1j 2-1 2-2 3 4 常食) 提供量: (1/2 全量) 水分ロミ: (濃い 中間 薄い なし)
 姿勢: (椅子 車椅子 端坐位 リクライニング位 (_____ 度) 頸部前屈位 健側傾斜 頸部回旋)
 手技: (食前口腔ケア 食前吸引 一口量調整 嚥下意識化 複数回嚥下 交互嚥下)
 備考: (_____)

チェック欄に○×を記入してください(各1点)。

明確な判断ができない場合は悪い反応を選択。日常動作や訓練場面、看護師の意見も参考にしてください。

採点は上位の項目を優先とし、上位の項目が正答である場合は下位の項目は行わず正答とする(例:1.意思伝達

1-1-2が正答の場合は1-1-1は無条件に正答となり合計2点となる)。ただし、★の項目は各項目ごとに採点する。

①導入 備考()

1.意思伝達(発語以外でもよい) 2点

1-1-2 好き嫌いなど具体的な要求の伝達ができる	チェック
1-1-1 食べられる・食べられないの伝達ができる	

2.発声・発語 全2項目3点満点

2-2-2 文で会話(発話)ができる	チェック
2-2-1 単語で会話(発話)ができる	
2-1 挨拶の復唱ができる	

3.構音 2点

3-1-2 問題なく聞き取れる	チェック
3-1-1 音に歪みがあるが聞き取れる	

4.呼吸 3点 各1点全3点

★ 4-3 SpO ₂ 3%以上の低下がない(評価中)	チェック
★ 4-2 酸素投与されていない	
★ 4-1 呼吸が安定している	

5.姿勢 全2項目3点満点

5-2-2 頸部前屈位が自力で保持できる	チェック
5-2-1 頸部前屈位を姿勢調整することで保持できる	
★ 5-1 最後まで食事姿勢の保持が可能	

①導入	合計
	/13

②先行期 備考()

6.覚醒・注意 4点

6-1-4 持続的に全ての食物・皿に注意が向く	チェック
6-1-3 意識清明	
6-1-2 呼びかけに容易に目が開く	
6-1-1 大きな声や身体の揺さぶりで目が開く	

7.認知・意欲 全3項目5点

★ 7-3 食物と異物の認識ができる	チェック
★ 7-2 我慢できる・抑制が効く	
7-1-3 自分で進んで食べようとする	
7-1-2 自らは食べないが促されると食べようとする	
7-1-1 好きなもの(特定の物)は自ら食べようとする	

8.協力 2点

8-1-2 協力的である	チェック
8-1-1 協力が得られるがムラがある	

9.理解(病識) 各1点全5点

★ 9-5 誤嚥や手技の必要性を理解できる	チェック
★ 9-4 湿性嘔声やムセに自ら気付くことができる	
★ 9-3 姿勢・食事形態を守ることができる	
★ 9-2 一口量が適量である	
★ 9-1 摂取スピードが適切である	

10.耐久性 3点

10-1-3 30分以上食べられる体力がある	チェック
10-1-2 20分以上30分未満食べられる体力がある	
10-1-1 10分以上20分未満食べられる体力がある	

※食事に限らず日常や訓練場面での耐久性も参考にする

②先行期	合計
	/19

③準備・口腔期 備考()

11.歯 2点

11-1-2 咀嚼に必要な歯がほぼ残存している	チェック
11-1-1 義歯を着用しておりかつ安定している	

※11-1-2 目安は20本程度。大臼歯、小臼歯の有無を評価する

12.取り込み 各1点全5点

★ 12-5 一度入れた食べ物が口からごぼれない	チェック
★ 12-4 スプーンに食物が残っていない	
★ 12-3 上を向いて取り込もうとしない	
★ 12-2 舌や口唇で食物を押し出さない	
★ 12-1 開口できる	

13.咀嚼 2点

13-1-2 十分に噛む・噛み砕くことができる	チェック
13-1-1 顎の回旋運動がみられる(すりつぶし)	

※固形物咀嚼の目安は1口20回以上。咀嚼不要の食物形態の場合は0点

14.食塊形成 各1点全3点

★ 14-3 咀嚼中(食物輸送中)にムセがない	チェック
★ 14-2 開口(取り込み)時に食物が口に広がっていない	
★ 14-1 咀嚼中に食物が口からごぼれない	

15.送り込み 各1点全3点

★ 15-3 嚥下後、口に多くの食物残渣がない	チェック
★ 15-2 咀嚼後、嚥下までほとんど時間がかからない	
★ 15-1 水平または下を向いても食物が輸送できる	

③準備・口腔期	合計
	/15

④咽頭期 備考()

16.嚥下反射 各1点全5点

★ 16-5 喉頭挙上の力が十分(触診時指を押しのける)	チェック
★ 16-4 喉頭挙上の速度が十分(すばやく挙がる)	
★ 16-3 喉頭挙上の距離が十分(1横指以上)	
★ 16-2 タイミングよく嚥下反射が起こる	
★ 16-1 食物や水が鼻から出ない	

17.嚥下音 各1点全6点

★ 17-6 嚥下後の湿性嘔声がほぼない	チェック
★ 17-5 嚥下後の呼吸音がクリア	
★ 17-4 嚥下音が明瞭	
★ 17-3 逆流音が聴取されない	
★ 17-2 詰まり音が聴取されない	
★ 17-1 連続音が聴取されない	

18.咽頭の反応 全2項目3点満点

18-2-2 ムセが全くない	チェック
18-2-1 ムセがあるが5回以内	
★ 18-1 咳払い・ムセがあるが対処できる	

※リスクが高く食事を中断した場合は18-2-2、18-2-1は0点

ムセがある場合(嚥下前 嚥下後 嚥下中 前半 後半)

ムセがみられた食物()

摂取量	主食:	割
	副食:	割
	補助栄養:	割
総合評価:		

④咽頭期	合計
	/14

⑤食道期 備考()

19.食道期 各1点全4点

★ 19-4 嘔吐歴がない	チェック
★ 19-3 食後に食物が口に戻ってこない	
★ 19-2 胸のあたりにつかえる感じがなく(聴取)	
★ 19-1 胸やけの訴えがなく(聴取)	

⑤食道期	合計
	/4

総合計
/65点

推奨される食品・食事形態

(0j 0t 1j 2-1 2-2 3 4 常食)